

新園児を迎えて始めての ESD のひろばですので、これまでの振り返りを中心にお話しさしたいと思います。私たちは今の消費生活がずっと続くように錯覚しがちですが、このことを福岡教育大学で ESD を専門とする石丸教授は「持続可能ボケ」と表現されています。子うさぎの森保育園の保育には、もともと ESD の要素がたくさんありますが、それらを「食育」「遊び」「大人との関わり」から見てみたいと思います。

### 食育と ESD

食もそのひとつです。以前に有機野菜を例にあげましたが、栄養面や味、身体に良いことはもちろんのこと、土壤の汚染や海洋保全、農家さんの健康被害を防ぐことができます。またメラニン食器などは壊れにくいので幼児の食器によく使われるのですが、陶器や漆器を使うことで、食器の質感や重み、扱い方によっては壊れることを知ることを知り、ものを大切に扱うことが自然と身についていきます。



### 遊びと ESD

かつて高度成長期を支え、今の便利な世の中を作り上げてくれた私たちの先輩方。しかしそこには持続的ではなかった開発の爪痕が残ってしまいました。ある人が今の70、80代以上の方々と話しをしていた時に聞いたそうです。「みんなの子どもの頃は、遊ぶといったら自然の中。自然から充分に恩恵を受けて過ごしてきたはずなのに、なぜ今のような現状（地球温暖化・森林伐採・環境汚染・オゾン層破壊、）になったのでしょうか？」と。その問い合わせへの答えは「こんなことになるなんて誰からも教えてもらえなかっただから」だったそうです。保育園での森のムッレ教室では自然での遊びを通じて、自然や生物への不思議と愛着を感じ、自分もこの自然循環の一部として生かされているというエコロジー感覚を養っています。

### 大人との関わりと ESD

将来のための資質、能力の基礎を育むのも ESD で大切なことです。乳幼児期だからこそできること、信頼できる大人に肯定的に関わってもらった経験が、基本的信頼感となり、やがて自分を肯定的に捉え、明るく前向きに課題に向き合い、取り組んでいける子どもへと成長していきます。



### わたしたちの ESD

子どもは模倣しながら感覚で学んでいきます。私たち大人が未来のことを意識して、ちょこつとずつ普段の生活を変えていくことが大切なようです。次第に子ども達にとってそれが当たり前になっていく、それが持続可能な開発のための教育ではないでしょうか？今年度は生ゴミを肥料にするコンポスト作りや、紙のリサイクルなど、身近な生活の中でできることを遊びの一部として取り入れていきたいと思います。